



日本 BS 放送株式会社

2025 年 8 月期第二四半期 決算説明会

2025 年 4 月 24 日 16 時～17 時 開催

[登壇者] 代表取締役社長 近藤 和行

取締役 松友大輔

山本：皆様、こんにちは。本日は、日本 BS 放送株式会社 Web 説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

まず、はじめに、本日の出席者をご紹介します。代表取締役社長、近藤和行でございます。

経営企画局担当、取締役、松友大輔でございます。私は司会の山本と申します。最後までどうぞよろしくお願いいたします。

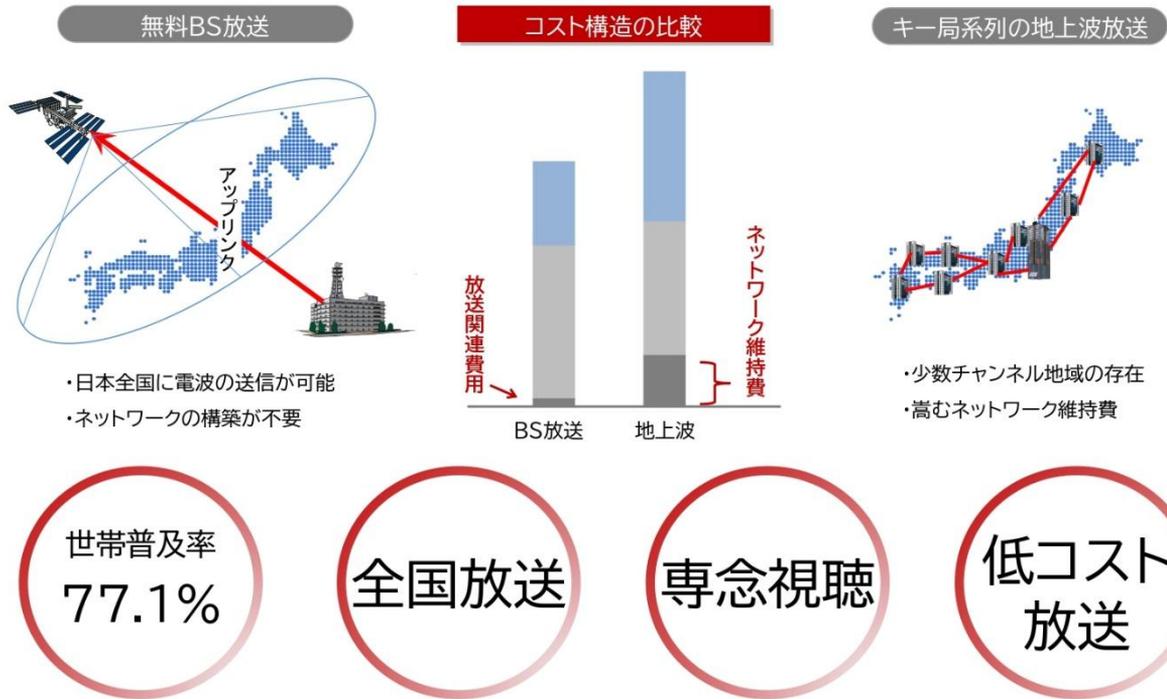
それでは、これより決算説明を移らせていただきます。近藤社長、よろしくお願いいたします。

近藤：皆さん、こんにちは。本日は、日本 BS 放送株式会社、2025 年 8 月期の第 2 四半期決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。代表取締役社長の近藤です。

本日はご覧いただいておりますスライドの項目に沿ってお話をさせていただきます。

まず、はじめに、当社事業について簡単にご説明いたします。

✓ 地上波放送とコスト構造が異なり、全国一波、低コストで放送可能



当社は、2007年に開局した、全国無料放送のBS衛星テレビ局です。

BS局は、地上波放送とコスト構造に大きな違いがあり、電波塔などのネットワーク維持費がかからないため、より低いコストで効率よく放送することができます。

また、当社は地上波系列局と違い、家電量販店のビックカメラグループに所属しております。独立放送局だからこそ、自由なコンテンツの制作・展開が可能で、ドラマやアニメ、競馬など、多岐にわたる番組ジャンルを編成しております。

✔ ビックカメラグループに所属、視聴者との直接的な接点を活用

全国無料BS放送局

グループ会社	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	テレビ東京	フジテレビ	ジャパネット	ビックカメラ	三井物産	松竹・東急	吉本興業	放送大学
放送局	BS日テレ	BS朝日	BS-TBS	BSテレ東	BSフジ	BS10	BS11	BS12	BS松竹東急	BSよしもと	BSキャンパスex BSキャンパスon
系列	地上波系列					独立系					公共
開局年月	2000年12月					2025年1月	2007年12月	2022年3月		2011年11月	

地上波系列と当社にて、“無料BS放送6局”として視聴状況調査を実施、
共同で『メディアガイド』を作成するなどBS放送の価値向上に向けた取り組みを実施。



さらに、ビックカメラ、コジマ、ソフマップなどのグループ店舗において、視聴者と直接的なタッチポイントを持っており、さまざまなスポンサー施策、事業の告知・展開が可能です。

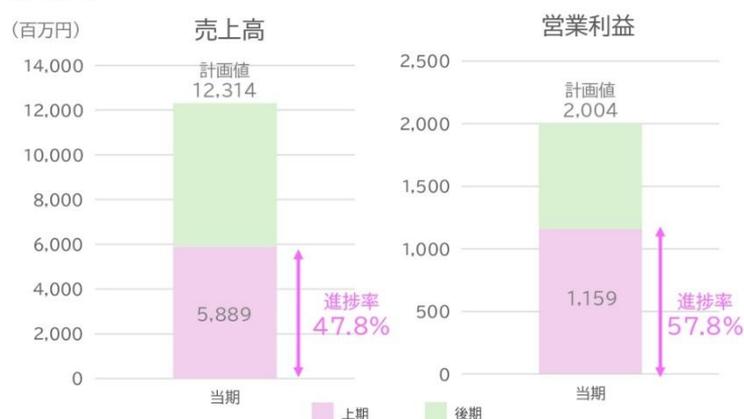
全国一歩、低コストで効率的にCMや番組お届けできること、視聴者との直接的な接点を活用できることをアドバンテージとして、多くのクライアントや視聴者の皆様に選ばれるテレビ局へと成長してまいりました。

2025年8月期 第2四半期（連結）

売上高 5,889百万円（前年同期比 0.8%減↓）

営業利益 1,159百万円（前年同期比 25.0%増↑）

▶通期計画に対する進捗率



それでは、2025年8月期第2四半期の業績についてご説明いたします。

業績ハイライトです。

連結売上高は58億8,900万円、前年同期比で0.8%の減。連結営業利益は11億5,900万円、前年同期比25%増で着地いたしました。

通期計画に対して、売上高は平均ペースでほぼ同様の進捗率となっております。営業利益は、57.8%の進捗ということで、平均ピッチを大きく上回って推移しております。

業績の詳細につきましては、経営企画局担当の松友より詳しくご説明いたします。

損益計算書の概要（連結）

✔ (連結)売上高 前年比△0.8%、営業利益+25.0%

	2024年8月期 第2四半期 累計	2025年8月期 第2四半期累計 (単位:百万円、下段は売上比)						
		実績	前年 同期比	増減額	計画	計画比	増減額	主な増減要因(前年同期比)
売上高	5,936 (100.0%)	5,889 (100.0%)	△0.8%	△46	5,906 (100.0%)	△0.3%	△16	(売上高) ・放送事業収入…△53百万円 ・その他収入…+38百万円 ・その他収入(子会社) …△31百万円 (売上原価) ・番組制作費…△190百万円 ・減価償却費…△66百万円 (販管費) ・広告宣伝費…△80百万円
売上総利益	2,768 (46.6%)	2,947 (50.0%)	6.5%	179	2,787 (47.2%)	5.8%	160	
営業利益	927 (15.6%)	1,159 (19.7%)	25.0%	231	957 (16.2%)	21.1%	202	
経常利益	930 (15.7%)	1,174 (19.9%)	26.2%	243	970 (16.4%)	21.1%	204	
親会社株主に帰属 する中間純利益	642 (10.8%)	801 (13.6%)	24.9%	159	660 (11.2%)	21.5%	141	



© Nippon-BS-Broadcasting-Corporation.

松友：経営企画局担当の松友です。

まず、連結業績につきましてご説明いたします。

売上高は58億8,900万円。放送収入は前年同期比5,300万円減、放送外収入は前年同期比3,800万円増、子会社の売上が前年同期比3,100万円減となりまして、連結では前年同期比4,600万円の減収となりました。

営業利益は、放送事業におきまして、前年に放送しました大型スポーツ番組やレギュラー番組に係る制作費の反動減、および2022年10月から2023年3月にかけて実施いたしました当社のスタジオ設備更新に伴う償却負担の軽減がございまして、11億5,900万円で増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、8億100万円となりました。

貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

貸借対照表		(単位:百万円、下段は構成比)		キャッシュ・フロー計算書		(単位:百万円)	
		2024年8月期末	2025年8月期 第2四半期末	前年増減額	2024年8月期 第2四半期累計	2025年8月期 第2四半期累計	
流動資産	17,041	16,294	△747	営業キャッシュ・フロー			
	(65.8%)	(63.0%)					
固定資産	8,852	9,550	697	税金等調整前中間純利益	930	1,174	
	(34.2%)	(37.0%)		減価償却費	300	235	
資産合計	25,894	25,845	△49	売上債権の増減額(△は増加)	369	325	
	(100.0%)	(100.0%)		棚卸資産の増減額(△は増加)	△100	△58	
流動負債	2,166	1,832	△334	仕入債務の増減額(△は減少)	22	△71	
	(8.4%)	(7.1%)		未払金の増減額(△は減少)	△237	△84	
固定負債	128	129	1	未払消費税等の増減額(△は減少)	96	△145	
	(0.5%)	(0.6%)		法人税等の支払額	△234	△346	
負債合計	2,295	1,962	△332	投資キャッシュ・フロー	△9	△2,006	
	(8.9%)	(7.7%)		定期預金の預入による支出	-	△1,000	
純資産合計	23,598	23,882	283	有形固定資産の取得による支出	△5	△6	
	(91.1%)	(92.3%)		投資有価証券の取得による支出	-	△995	
負債・純資産合計	25,894	25,845	△49	財務キャッシュ・フロー	△463	△535	
	(100.0%)	(100.0%)		配当金の支払額	△462	△534	
				現金及び現金同等物の増減額	711	△1,547	
				現金及び現金同等物の期首残高	13,599	6,152	
				現金及び現金同等物の中間期末残高	14,310	4,604	

連結の貸借対照表は、ご覧のとおりでございます。

資産合計は、258億4,500万円。純資産合計は、利益剰余金の計上により、238億8,200万円となりました。

キャッシュ・フローの状況についてご説明いたします。

営業キャッシュ・フローは、9億9,300万円のキャッシュインとなりました。

主に当期純利益の計上によるものです。

投資キャッシュ・フローは、20億600万円のキャッシュアウトとなりました。

ゼロ金利時代の終焉、インフレ社会への移行が明確となったことを受けまして、現預金の目減りを抑えることを目的に行いました普通預金から定期預金への預け替えによる減少分が10億円、投資有価証券の取得による影響が9億9,500万円ございました。

財務キャッシュ・フローは、5億3,500万円のキャッシュアウトとなりました。

株主還元施策強化の一環として、増配を行ったことによる配当金の支払額増が主な要因でございます。

損益計算書の概要（個別）

✔ その他収入の増加、番組制作費とスタジオ設備償却費の減少 → 営業利益が+29.6%

	2024年8月期 第2四半期 累計	2025年8月期 第2四半期累計 (単位:百万円、下段は売上比)						
		実績	前年 同期比	増減額	計画	計画比	増減額	主な変動要因(前年同期比)
売上高	5,547 (100.0%)	5,534 (100.0%)	△0.2%	△13	5,646 (100.0%)	△2.0%	△111	・スポット収入の減少・・・△54百万円 ・その他収入の増加・・・+40百万円
売上総利益	2,577 (46.5%)	2,799 (50.6%)	8.6%	221	2,689 (47.6%)	4.1%	109	(段階利益) 売上原価の減少
営業利益	920 (16.6%)	1,192 (21.6%)	29.6%	272	992 (17.6%)	20.2%	200	≪利益増加の具体的要因≫ ・前年同期に放送した番組にかかる 費用の反動減 ・放送月の変更による番組予算等の 下期への月ズレ
経常利益	924 (16.7%)	1,208 (21.8%)	30.8%	284	1,006 (17.8%)	20.1%	202	
四半期純利益	638 (11.5%)	836 (15.1%)	31.0%	198	697 (12.3%)	19.9%	138	・2022年10月～2023年3月にかけて 実施したスタジオ設備更新に伴う 償却負担の軽減



個別業績につきましては、ご覧のとおりでございます。

基本的な増減要因につきましては、連結業績と同様でございます。

✔ スポット収入に回復の兆し、配信事業・アニメ出資配当が好調 → 売上高△0.2%

	2024年8月期 第2四半期累計	2025年8月期 第2四半期累計 (単位:百万円、下段は構成比)			
		実績	前年同期比	計画	計画比
売上高	5,547 (100.0%)	5,534 (100.0%)	△0.2%	5,646 (100.0%)	△2.0%
タイム収入	4,009 (72.3%)	4,010 (72.5%)	0.0%	4,165 (73.8%)	△3.7%
スポット収入	1,164 (21.0%)	1,109 (20.1%)	△4.7%	1,048 (18.5%)	5.9%
その他	373 (6.7%)	413 (7.5%)	10.9%	432 (7.7%)	△4.3%

主な増減要因(前年対比)

- タイム収入
前期放送の大型スポーツ特番の反動減が見られたものの、競馬中継等の公営競技が好調となったほか、引き続きショッピングが堅調に推移し、前年同期比+0.0%
- スポット収入
新規取引先の獲得等に注力したことで、回復の兆しが見られるも、前年同期比△4.7%
- その他
配信事業収入、アニメ製作委員会からの出資配当収入が好調となり、前年同期比+10.9%

売上高および主要な費用項目の詳細については、個別業績で説明いたします。

まず、売上区分別実績です。

タイム収入は、前期放送の大型スポーツ特番の反動減がございましたが、ショッピングが堅調に推移し、さらに競馬中継などの公営競技が好調でございましたので、前年同期比とほぼ同額の40億1,000万円を着地いたしました。

スポット収入は、新規取引先の獲得や過去に取引実績のあるクライアントの掘り起こしなどに注力いたしましたが、前年売上をカバーすることができず、前年同期比4.7%減の11億900万円を着地いたしました。

その他収入につきましては、配信事業に伴う収入やアニメ作品への出資に伴う配当収入が好調に推移いたしまして、さらにイベント事業、通販事業など、新たな収益の柱を確立すべく、放送外事業に注力した結果としまして、前年同期比10.9%増の4億1,300万円となりました。

主要費用項目実績（個別）

✓放送番組の変更と下期への月ズレ → 番組関連費用△8.1%、コスト効率の追求 → 広告関連費用△19.4%

	2024年8月期 第2四半期累計	2025年8月期 第2四半期累計			（単位：百万円、下段は売上比）	主要な増減要因
		実績	前年同期比	前年増減額		
番組関連費用（原価）	1,830 (33.0%)	1,682 (30.4%)	△8.1%	△148		
番組購入費	151 (2.7%)	194 (3.5%)	27.8%	42	視聴者ニーズを追求したドラマコンテンツの調達	
番組制作費	1,678 (30.3%)	1,487 (26.9%)	△11.4%	△190	前年同期放送の番組にかかる費用の反動減 放送月変更による下期への費用の月ズレ	
放送関連費用（原価）	276 (5.0%)	274 (5.0%)	△0.7%	△1		
放送委託費	254 (4.6%)	243 (4.4%)	△4.1%	△10		
技術費	22 (0.4%)	31 (0.6%)	38.1%	8		
広告関連費用（販管費）	406 (7.3%)	327 (5.9%)	△19.4%	△79		
広告宣伝費	380 (6.9%)	301 (5.5%)	△20.8%	△79	コスト効率を意識した広告宣伝施策の実施	
販売促進費	26 (0.5%)	26 (0.5%)	-%	-		

続いて、費用の状況についてご説明いたします。

番組関連費用は16億8,200万円、前年同期比8.1%減となりました。

番組購入費が前年同期比27.8%増の1億9,400万円となった一方、番組制作費については、放送番組の改編やアニメ作品などの放送スケジュールが変更になったことなどにより、14億8,700万円、前年同期比11.4%減となりました。

放送関連費用は2億7,400万円、前年同期比0.7%減となりました。

広告関連費用は、コスト効率を意識した広告宣伝施策の実施により3億2,700万円、前年同期比19.4%減となりました。

貸借対照表の概要（個別）

		2024年8月期末	2025年8月期第2四半期末		
			第2四半期	前年増減額	主な増減要因
流動資産		16,553 (65.1%)	15,956 (62.5%)	△596	現金及び現金同等物の減少 △534百万円 売掛金の減少 △181百万円 有価証券の増加 +99百万円
	固定資産	8,858 (34.9%)	9,556 (37.5%)	697	投資有価証券の増加 +896百万円
資産合計		25,412 (100.0%)	25,513 (100.0%)	101	
流動負債		1,815 (7.1%)	1,596 (6.3%)	△218	未払消費税の減少 △132百万円
	固定負債	125 (0.5%)	127 (0.5%)	2	
負債合計		1,941 (7.6%)	1,724 (6.8%)	△216	
純資産合計		23,471 (92.4%)	23,788 (93.2%)	317	税引後中間純利益 +301百万円
負債・純資産合計		25,412 (100.0%)	25,513 (100.0%)	101	

個別の貸借対照表は、ご覧のとおりでございます。

売上高は12,314百万円(前期比0.6%増)、営業利益は2,004百万円(前期比3.8%減)、
親会社株主に帰属する当期純利益は1,407百万円(前期比3.3%減)を計画

(単位:百万円、下段は売上比)

	2024年8月期		2025年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			実績	前期比	計画	前期比	増減額
売上高	5,936 (100.0%)	12,241 (100.0%)	5,889 (100.0%)	△0.8%	12,314 (100.0%)	0.6%	73
営業利益	927 (15.6%)	2,083 (17.0%)	1,159 (19.7%)	25.0%	2,004 (16.3%)	△3.8%	△79
経常利益	930 (15.7%)	2,097 (17.1%)	1,174 (19.9%)	26.2%	2,032 (16.5%)	△3.1%	△65
親会社株主に帰属 する当期純利益	642 (10.8%)	1,455 (11.9%)	801 (13.6%)	24.9%	1,407 (11.4%)	△3.3%	△48

続きまして、2025年8月期通期計画についてご説明いたします。

まず、連結の通期計画についてご説明いたします。

売上高は123億1,400万円、前期比0.6%増。営業利益は20億400万円、前期比3.8%減。経常利益は20億3,200万円、前期比3.1%減。親会社株主に帰属する当期純利益は14億700万円、前期比3.3%減を予想しております。

売上高は11,600百万円(前期比2.1%増)、営業利益は2,000百万円(前期比2.8%減)、
当期純利益は1,406百万円を計画(前期比1.8%減)

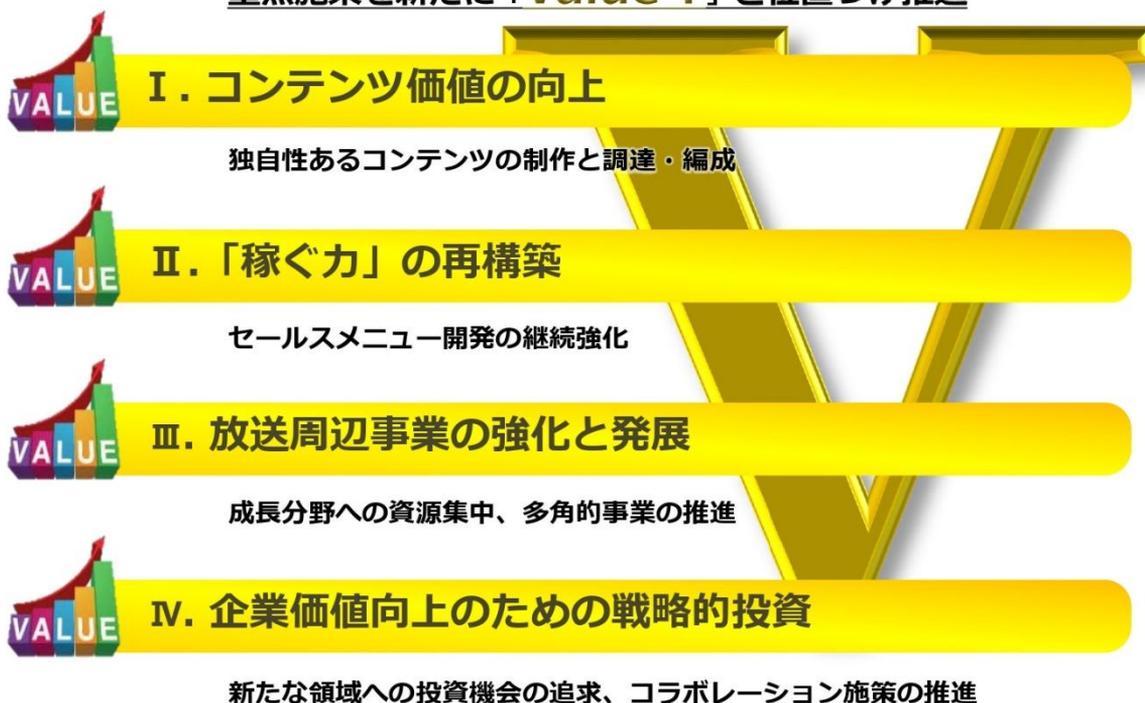
(単位:百万円、下段は売上比)

	2024年8月期		2025年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			実績	前期比	計画	前期比	増減額
売上高	5,547 (100.0%)	11,357 (100.0%)	5,534 (100.0%)	△0.2%	11,600 (100.0%)	2.1%	243
タイム収入	4,009 (72.3%)	8,262 (72.7%)	4,010 (72.5%)	0.0%	8,518 (73.4%)	3.1%	256
スポット収入	1,164 (21.0%)	2,269 (20.0%)	1,109 (20.1%)	△4.7%	2,128 (18.3%)	△6.2%	△141
その他	373 (6.7%)	825 (7.3%)	413 (7.5%)	10.9%	953 (8.2%)	15.5%	128
営業利益	920 (16.6%)	2,057 (18.1%)	1,192 (21.6%)	29.6%	2,000 (17.2%)	△2.8%	△57
経常利益	924 (16.7%)	2,073 (18.3%)	1,208 (21.8%)	30.8%	2,029 (17.5%)	△2.1%	△44
当期純利益	638 (11.5%)	1,432 (12.6%)	836 (15.1%)	31.0%	1,406 (12.1%)	△1.8%	△26

続きまして、当社日本BS放送の個別の通期計画は、ご覧のとおりでございます。

以上、決算業績と通期計画についてご説明いたしました。

重点施策を新たに「Value 4」と位置づけ推進



近藤： それでは、重点施策および主な取組みについてご説明いたします。

まずは、当社の重点施策についてご説明いたします。

ご覧いただいております重点施策「Value 4」として、コンテンツ価値の向上、「稼ぐ力」の再構築、放送周辺事業の強化と発展、企業価値向上のための戦略的投資、以上の四つを掲げております。

具体的な施策の方針としては、マルチ展開可能なコンテンツの創造力の強化、アニメ・配信等の成長分野への投資を積極的に実行してまいります。

当社の代表的な自社制作番組などを3分ほどの映像にまとめましたので、ここでどうぞご覧ください。

～3分間の番宣VTR～

✔ **新たな歌謡番組を立ち上げ、多岐にわたる番組ジャンルを自社で制作・放送・配信**

➢ 自社制作番組

BS視聴者層に人気のコンテンツジャンル



音楽

幅広いスポーツを編成



サッカー



お酒



紀行



ゴルフ



バイク



歴史



紀行



競馬



ソフトボール

近藤：さきほどVTRにございました「鶴瓶のええ歌やなあ」は、去年の10月よりレギュラー放送を開始しております。多くの視聴者から大変ご好評いただいております歌謡番組「八代亜紀 いい歌いい話」をレギュラー放送していましたが、八代亜紀さんをご逝去されたことを受け、後継の新たな歌謡番組として今回立ち上げ、好評を得ております。

✔ 独立放送局の強みを活かし、多様な特別番組と他局・地方自治体との連携により全国へ地域の魅力を発信

▶ 特別番組

多様なジャンルの特別番組を放送

地方自治体との番組の共同制作も実施



音楽



競馬



紀行



バラエティ



報道



紀行



音楽



紀行

『TOKYO FM 少年合唱団 クリスマスコンサート2024
～ 天使の歌声降るクリスマス～』

他局との共同制作も積極実施

『おいでよ和歌山 梅の魅力を探す旅-みなべ町・田辺市編-』

このほか、「八代亜紀さん一周忌 あなたが選ぶ名曲集！」や「定点観測 アメリカ大統領選 2024」など、さまざまなジャンルの特別番組を企画・展開しております。

当社では、ネットワークに属さない独立放送局としての強みを活かし、番組の共同制作をはじめ、他局とのコラボレーション施策を積極的に行っており、各地方の特色を効率的に全国に伝えることが可能です。

2025年8月期 第2四半期 コンテンツ戦略

BS11 日本BS放送

✔ 視聴者・クライアントニーズに寄り添った強力なラインナップ、放送と配信で幅広く展開

> 2024年9月～2025年2月放送 ドラマコンテンツ等

中国時代劇				
韓国ドラマ				
ヨーロッパミステリー				
その他コンテンツ				

放送したドラマコンテンツ等は、一部を除き、「TVer」や、オリジナル配信サイト「BS11+」にて配信中

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

21

また、当社では、視聴者ニーズ・クライアントニーズに合わせた強力なドラマコンテンツを編成しております。BSの主な視聴者層である50代以上の視聴者と親和性の高い国内ドラマ、中国時代劇、ヨーロッパミステリー、韓国ドラマなどを放送しております。さらに、放送後は、TVerや当社オリジナルの課金型の配信プラットフォーム「BS11+」でも、一部のドラマの見逃し配信を実施しております。

✔ 配信事業を成長エンジンと捉え、オリジナルおよび協業コンテンツを強化

▶各プラットフォームでの配信



レギュラー番組、特別番組、ドラマコンテンツ等々



- ・「BS11+」、Tver、公式Youtubeチャンネルにて見逃し配信
- ・「BS11+」の有料会員数は引き続き増加、アーカイブ配信やドラマ配信に注力
- ・Tver、Youtubeでの報道番組、ドラマコンテンツなどの再生数が売上を牽引

▶配信オリジナルコンテンツの制作



WEB配信ドラマ「東京水没!？」

東京メトロポリタンテレビジョン(株)との共同制作WEBドラマの第1弾。「東京創生」をテーマに企画を公募し、ドラマ化。
【協力】東京都 / ドラマ監修:東京都水道局 【制作著作】BS11 / TOKYO MX



TOKYO FMのデジタル音声サービス「AuDee(オーディー)」にて、『報道ライブ インサイドOUT』の音声配信を開始

ここまでご紹介したほとんどの番組を「BS11+」やTverなどで配信しており、配信コンテンツ数、視聴者数ともに着実に伸ばしております。

配信限定のコンテンツの制作にも注力しており、今期は東京都を中心的な受信エリアとする東京メトロポリタンテレビジョン (TOKYO MX) とともに、「東京創生」をテーマに公募を行った東京都水道局がテーマのWEB配信ドラマを制作いたしました。アニメ事業に並び、配信事業につきましても、成長エンジンの一つとして積極的に拡大してまいります。

✔ 放送、製作委員会への出資、イベント、物販など多方面に展開、売上の約1割を支える成長分野に

〈2025年1月～3月放送の出資作品の一部〉



©ゆでたまご・集英社・キン肉マン製作委員会



©2024 喜楽マド・KADOKAWA・イファール制作委員会



©天乃聖樹・KADOKAWA・クラゲ制作委員会



©空入ぐみ・新藤社・「オキナワ」制作委員会

毎クール約40タイトルのアニメ関連番組を放送

➡多くのアニメ作品製作委員会に参加、「アニメのBS11」として認知が拡大

➤アニメ関連番組の制作等



放送開始:2015年10月～



放送開始:2017年5月～



特番

「アニモサマーライブ2024-Stargazer-powered by AnisonDay」
2005年に誕生し、今年19回目となった世界最大のアニソンライブイベント「アニサマ」の模様をテレビ独占放送。



イベント

アニメ&まんが聖地EXPO
2024年11月9日・10日に、豊島区・中池袋公園にて、アニソンイベント「スペシャルアニソンライブ Presented by BS11 ANIME+」を2日間で計4ステージ実施。

➡アニメ関連番組を継続して自社制作。イベントやグッズ販売等、多角的なIP展開を実施。

続きまして、当社の大きな柱に成長しつつあるアニメ事業戦略についてご紹介いたします。

開局以来、アニメ作品の放送を積極的に実施しており、現在は毎クールおよそ40タイトルのアニメ関連番組を放送しています。地上波ネットワーク、BS無料放送の中でもトップクラスの作品数です。

2009年からアニメ製作委員会へ参加。出資作品数を年々増やし、現在は年間およそ40前後の作品に出資をしております。

アニメ出資に伴う配当収入は毎年増加を続けており、現在では売上全体の1割近くにシェアを拡大しております。

また、アニメ関連のイベントも積極的に展開しており、昨年11月には、東京・池袋で開催された「アニメ&まんが聖地 EXPO」内で、アニソンライブイベントを実施いたしました。

このように、アニメ事業は当社の成長エンジンの大きな一つとして考えており、今後ともアニメ作品製作委員会への積極的な出資のほか、イベント事業、物販など、多方面の事業展開を実施してまいります。

✔ グループシナジーを活かし、イベントや通販事業を強化、視聴者層に合わせた企画で新たな収益源を創出

▶ イベント企画の展開



▶ 社内でオリジナルイベントを企画・制作

▶ 番組から派生したイベントの実施や、イベントを見逃し配信、番組化など、多面的な展開が可能

▶ 通販事業の推進

通販サイト BS11SHOP 産直通販



▶ ビックカメラグループとのシナジー

・売上施策の1つとして、実店舗で販売中の商品をオリジナルショッピング番組内で販売



次に、当社のイベント施策や通販、グループシナジーについてお話いたします。

当社では、イベント事業を新たな収益の柱に成長させるべく、番組発信のものから、イベント事業として一から立ち上げた企画など、今期はさまざまなジャンルのイベントを実施いたしました。いずれのイベントにおいても、参加者の皆様には大変ご好評いただき、各イベント企画の継続的な展開を考えているところでございます。

続いて、通販事業についてご説明いたします。

当社の視聴者には、紀行番組やグルメ番組の視聴者が多く、その視聴者層をターゲットとした新たな事業として、「BS11SHOP 産直通販」を立ち上げました。全国から厳選したお取り寄せグルメなどを販売しており、サイト内で販売している商品を通販番組内でもご紹介しております。

また、ビックカメラグループとの協業の一つとして、「BS11 テレビショッピング supported by ビックカメラ」を制作・放送しております。さらには、当社の番組やイベント告知を、全国のビックカメラの店舗内サイネージなどを活用して宣伝するなど、お互いの強みを活かした施策を実施しております。当社の視聴者の中に潜在するテレビ通販の視聴者層を取り込むべく、今後も注力してまいります。以上、2025年8月期第2四半期の取組みについてご説明いたしました。

✓ 新番組や視聴者参加型キャンペーンを通じてコンテンツ価値を向上

VALUE I. コンテンツ価値の向上

➤ 幅広い世代に向けたコンテンツの充実



『黒谷友香、お庭つくります』



➤ 広告宣伝施策



2025年1月より、11カ月連続企画として、『毎月11日は“BS11イレブンの日”キャンペーン』を実施中。抽選で、番組オリジナルピクカメラギフトカードをプレゼント。

VALUE II. 「稼ぐ力」の再構築

➤ ドラマコンテンツの強化

視聴者ニーズ、クライアントニーズに合わせて、強力なコンテンツをラインナップ



『テレサ・テン 歌姫を愛した人々』



© 泉放送制作 / 東海テレビ



『次郎長三国志』

続きまして、今後の施策についてご説明いたします。

この下期は、引き続き幅広い世代に向けたコンテンツ価値の向上を目的に、新たなレギュラー番組、先ほどVTRにもございましたが、「黒谷友香、お庭つくります」の放送を開始いたしました。

また、ファン層を拡大する、皆さんに親しみを持ってもらいたいという目的で、「毎月11日はBS11イレブンの日キャンペーン」と題しまして、今年の1月より、視聴者の皆様を対象にした参加型プレゼントキャンペーンを実施しております。多くの皆様から、毎月たくさんのご応募をいただいているところであります。ありがとうございます。

「稼ぐ力」の再構築のためには、日中帯のドラマコンテンツについて研究と議論を重ね、この4月改編からは強力なコンテンツを配置しております。

VTRにもご覧いただきました、アジアの歌姫テレサ・テンさんの生涯を描いた「テレサ・テン 歌姫を愛した人々」は、日本初放送でございます。さらに、当社でのドラマ放送を記念して「テレサ・テン あなたに逢いたい 没後30年メモリアル・チャリティーコンサート」というイベントを、5月6日に東京・北区の赤羽会館にて開催する予定でございます。

✓「放送周辺事業」は、5年間で約2.5倍に成長、自社IPの活用とマルチ展開でさらに成長を加速

VALUE III. 放送周辺事業の強化と発展



▶アニメ事業の発展、コンテンツのマルチ展開

AnimeJapan 2025
アニメのすべてが、ここにある。

会場:東京ビックサイト
日程:2025年3月22日(土)・23日(日)
世界最大のアニメイベント
「AnimeJapan」に今年も出展。新作アニメの豪華キャスト陣によるトークステージを実施。昨年は約13万人が来場。



4月に高知県で開催される「高知アニクリ祭2025」にて、「Anison Days」のライブイベントを実施。



5月に東京・丸の内 COTTON CLUBにて、「AnisonDays OtoNight2025」を開催。



配信事業のさらなる発展のため、「BS11+」配信限定コンテンツを多数制作。

アニメ事業の収益力をさらに拡大、番組コンテンツのマルチユース戦略により新たな成長基盤を確立

続いてご覧いただいておりますのは、その他収入の売上グラフです。

2019年からの5年間で、アニメ事業や配信事業を中心とした放送周辺事業を、およそ2.5倍の売上まで着実に伸ばしてきました。

下期も、「AnimeJapan」の出店や「Anison Days」のイベント開催など、このほかにも自社IPの活用による事業展開を多数企画しているところでございます。

今後は、番組などのコンテンツを中心としたIPの創出、そしてマルチ的な展開をよりいっそう加速させ、新たな成長分野として当社収益の柱として育てていきたいと考えているところでございます。

✓さらなる成長フェーズに向け、企業間コラボレーションを強化し、シナジー効果を最大化

VALUE IV. 企業価値向上のための戦略的投資

➤他局とのコラボレーション企画



「桜前線2025 全国キャスターリレー! ~自慢したい桜スポット~」
3月10日(月)~4月1日(火) 放送

毎年恒例の桜前線全国キャスターリレー。各局の人気番組の看板アナウンサー・リポーターが登場し、各地で見頃を迎える美しい桜を紹介。今回は全国17の放送局からお届けする。

(放送順)KTNテレビ長崎、TOSテレビ大分、eat愛媛朝日テレビ、中海テレビ放送、テレビ和歌山、奈良テレビ放送、三重テレビ放送、ひろ福放送、岐阜放送、石川テレビ放送、富山テレビ放送、UTYテレビ山梨、とちぎテレビ、さくらんぼテレビ、IBC若手放送、RAB青森放送、UHB北海道文化放送



「京都夜桜生中継2025 桜と名宝を訪ねて」3月26日(水) 放送
(株)京都放送と共に共同制作

➤各企業との協業事業

各企業とのコラボレーション事業を通じて、企業価値向上にむけた様々な取り組みを計画



© Tv Chokue 2022
「潮流セレクション Supported by U-NEXT 赤い風船 ~組み合う糸~」

株U-NEXTとの協業

「TOKYO FM 少年合唱団 クリスマスコンサート2024 ~天使の歌声降るクリスマス~」



TOKYO FM「AuDee」にて、音声配信を開始

➤ビックカメラグループとのシナジー



ショッピング番組の制作や、店舗を活用した番宣等を実施。さらなるグループ内連携、シナジー効果の発揮に向けて様々な取組みを計画。

また、当社の事業をさらなる上のフェーズに移行させるためには、ご覧いただいているスライドにございますように、各放送局、あるいは各企業とのコラボレーションによるシナジー効果をもっともっと広げていくことが必要だと考えております。

動画配信サービスを展開する大手の U-NEXT とは、一昨年の 2023 年 10 月より、共同制作番組をスタートしております。また、TOKYO FM が展開するデジタル音声サービス「AuDee」において、当社が放送した報道番組の音声配信を実施するなど、多くの企業と一緒にコンテンツ価値の最大化を図っているところでございます。

下期におきましては、ここまでご説明いたしました取組みを進め、さらに新たな事業の創出を促進することで、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

2025年8月期は、期末配当金 30円を計画

配当方針について

- ・ 企業価値の向上や持続的な発展に向け成長を確保する一方で、株主等ステークホルダーの期待に応えられるよう、経営資源の適切な配分を行い、配当性向40%程度を基準として、株主還元の拡充を図っていく方針です。
- ・ 年1回の期末配当を行うことを基本とします。

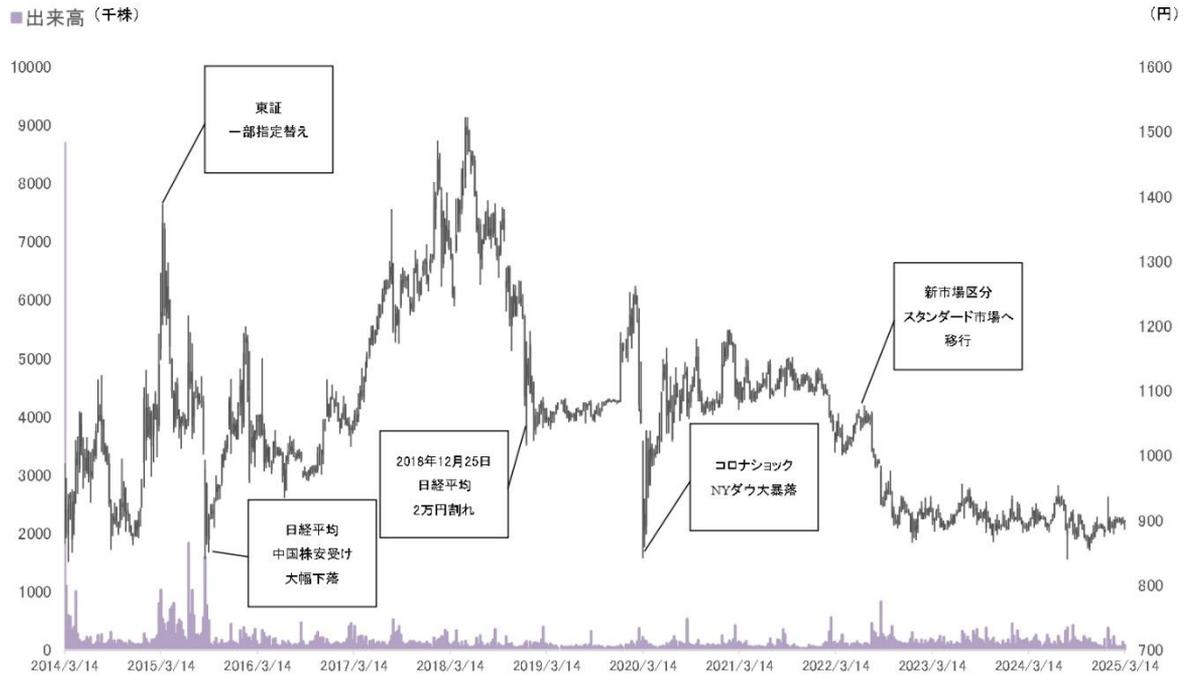


最後に、配当の状況についてご説明いたします。

2025年8月期は、期末配当を30円とさせていただき計画でございます。

企業価値の向上や持続的な発展に向け成長を確保する一方で、ステークホルダーの皆様のご期待に応えられるよう、経営資源の適切な配分を行ってまいりたいと考えております。

今後とも引き続き、投資家の皆様、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、たゆみのない成長を目指していきたいと考えております。



株価につきましては、ご覧のとおりでございます。

当社では、業績を上げ続けることで企業価値の向上に努め、株価の向上を目指していきたいと考えております。引き続き、当社が打ち出す各施策にご注目いただけますと幸いです。

以上をもちまして、ご説明を終了します。

ご清聴ありがとうございました。